佐用高等学校
同窓会報
塔陵

発行所
兵庫県佐用郡佐用町佐用260
兵庫県立
佐用高等学校同窓会
電話　0790（82）2434㈹
FAX　0790（82）2719
http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/
印刷所
㈾谷本弘輝堂

小さくても「キラッ」と輝く佐用高校に！

塔陵会会長　谷本　学
高校21回生（昭和四十四年卒）

２０２４年がスタートして早や２か月が過ぎようとしています。塔陵会の皆様には平素より佐用高校に対し、多大のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

穏やかに幕開けした令和６年の元日でしたが、震度７の能登半島地震、羽田空港の飛行機衝突事故、北九州小倉の大規模火災等立て続けに大きな災害が発生しました。

このように自然災害だけではなく、人為災害も含めて、いつ何時やって来るかもしれない災害に対し、日々怠りない心構え・準備の大切さを改めて痛感いたしました。ここに被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、人口減少が言われ始めて久しいのですが、日本の人口は２００８年の１億２８００万人をピークに減少の一途を辿っています。近隣の市町でも人口増の根本的な施策が見つからない中、結局は住民の奪い合いで人口の増加を図っているだけのように思えてなりません。全国的に人口減少が進むなか、人口を増やし、規模を大きくすることが、今目指すべきところなのでしょうか。

ところが、昨年の神戸新聞に佐用町が『**縮充（しゅくじゅう）**のまちづくり』に取り組んでいるという興味深い記事に目が止まりました。『**縮充**』とは人口や税収が縮小しながらも、地域の営みや住民の生活が充実したものになる仕組みをつくること、つまりは、量より質を大切にすることなのかもしれません。

高等学校における学級減、学校再編を余儀なくされている現状と重なるように思えてなりません。私が卒業した昭和44年頃には８学級（50人学級）を誇った佐用高校も現在５学級と減少してはいますが、本校生徒たちは積極的に地域に溶け込み、汗を流し、地域住民にとってもなくてはならない存在として活躍してくれています。だからこそ佐用の地域でひまわりの花のように明るく大きな存在であり続けてほしいと心から願っています。

このような田舎の小さな佐用高校だからこそ『**縮充**』を目指す高校モデルになっても面白いかも知れませんね。

「縦の糸と横の糸」

校長　大塚幹典

塔陵会の皆様には、平素より、本校教育活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。

５月に新型コロナ感染症が５類に移行し、学校教育活動も感染対策に配慮しながら、徐々に復活させていき、４月の入学式、その後の先輩との対面式も通常の形式に戻しました。

塔陵祭は昨年に続き１日開催で、４年ぶりに食品バザーを行うことができました。ＰＴＡの方にも「ホルモン焼きうどん」を、佐用町商工会青年部の方には「鹿コロッケ」を販売していただき、校内は活気に満ちあふれておりました。

生徒たちの頑張りも目覚ましく、県内11校の農業科の高校が競い合う農業クラブの県大会の平板測量部門で優勝することができ、10月に熊本県で行われた全国大会に出場し全国レベルを知る機会を得ました。その他の活躍も含め、新聞等でも多数取り上げていただきました。今後も本校のモットーである「明るくいきいき」「まちを支えるひとづくり」を実践していきたいと思います。

今年度、同窓会最大の事業は「令和五年度版会員名簿」の発行と拝察いたします。同窓会のネットワークづくりに必要不可欠であり、同窓会員の皆様のご尽力で５年ぶりに発行されたことをお祝い申し上げます。

７月29日に塔陵会館で令和５年度塔陵会総会が行われ、総会後、元本校教諭で元県立農業高等学校長　井瀬俊一先生に「性は相近し、学べば相遠ざかる」の演題でご講演いただきました。来年度も多数の同窓生の皆さまとお出会いできることを楽しみにしております。

学校は生徒・保護者・ＰＴＡ・同窓会・地域の協力体制で成り立ちます。少子化・人口減少が顕著な現在、１１４年の歴史と伝統を誇る佐用高校は同窓会からのご支援、同窓会との協力体制は今後も必要不可欠と存じます。中島みゆきさんの歌に「糸」があり、愛唱される方が多いです。その中に縦糸と横糸が出てきます。同窓会の先輩―後輩の「縦糸」、同窓会―学校の「横糸」を今後もしっかりと紡ぐことができればと願っております。

塔陵会の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念するとともに、今後もなお一層の母校へのご支援とご協力を賜わりますようよろしくお願いいたします。

母校の近況

教頭　上田貴哉

今年度から、新型コロナウイルス感染症の分類が５類となり、コロナ前の通常通りの日常に戻りました。６月の塔陵祭では、保護者の方々や地域の方々にも参加いただき昨年にはなかった模擬店も実施され、吹奏楽部の演奏、各学年、クラスの劇や展示、更には、家政科のファッションショーを実施することができました。また、９月末の体育大会では、昨年と違った競技種目も増え、多くの競技を保護者の方に見ていただき実施することができました。

家政科は、令和２年度より３年間、文部科学省「地域との協働による高等学校改革推進事業」の研究指定校に選ばれ、地域の課題解決を通して新しいカリキュラムを開発するなどの取組を終え、今年度から佐用町の支援を受け、「地域と高校の協働による輝く人づくり支援事業」と題して、国の指定事業の継続を図っています。さらに家政科のみならず、普通科、農業科学科も含めた全科を対象に地域との協働による取組を開始しました。

農業クラブにおいては、令和５年10月25日（水）に熊本県えがお健康スタジアムで行われた第74回日本学校農業クラブ全国大会（平板測量競技会）出場を決めました。

進路においては、就職では、内定者は12月１日現在52名で、内定率は１００％となっています。進学では、12月１日現在、国公立大学３名、私立大学14名、私立短期大学７名の生徒が、専門学校へは35名の生徒が合格しています。

今後は、私立、国公立推薦入試、私立一般入試・国公立大学二次試験対策を中心に、進路実現に向け学校全体で取り組んでいきます。

令和５年度　在籍生徒数

（11月1日現在）

学年 学科	1年	2年	3年	合計	学級数
普通科	72	84	77	233	9
農業科学科	37	27	29	93	3
家政科	25	35	24	84	3
合計	134	146	130	410	15

進路状況　令和４年度（75回生）進路状況

		合計	農業科学	家政	普通
卒業者数		173	38	35	100
進学	大学（通信制含む）	35	3	1	31
	短期大学	7	0	3	4
	専修・各種学校	58	12	16	30
	その他・未定	1	1	0	0
	計	101	16	20	65
就職	民間企業	65	22	13	30
	公務員	2	0	0	2
	縁故	2	0	2	0
	家事手伝い・その他	3	0	0	3
	計	72	22	15	35

井の中の蛙の顛末記

藤本 勝
高校16回生（昭和三十九年卒）

「井の中の蛙大海を知らず」に「されど天の高きを知る」と続くのを知らなかった。昭和20年代～30年代に佐用郡（幕山村～上月町）に育った私は、まさに「井の中の蛙」だった。高校１年生の時、ルーブル美術館が初めて日本に、京都に来るというので、有志で担任の繁延照夫先生に引率してもらって、人生初めての京都へ遠出しました。高校３年生の春に、神戸港から別府港へ夜行の関西汽船で九州に渡り、バスで大分－熊本(泊)－宮崎(泊)－鹿児島をめぐり、夕暮れの西鹿児島駅から夜行列車で帰る修学旅行を体験しました。その頃、私の高校卒業前後には、わが国で初めての高速道路（名神）が開通し、東海道新幹線が開通し、東京オリンピックもありました。私はやっと、佐用高校で大海があることを知り、進路を選択しました。隣組担任のN先生は、„人の弱みをつく、医者か弁護士が最も有利な選択である“と何度かおっしゃった。その教えを聞いて、何人かの優秀な同級生が、医師、弁護士、薬学博士になりました。これら「天の高きを知った」同級生を誇りに思います。私は人と関わる仕事に自信が持てず、男らしい、自然相手の仕事をしたいと思い、土木工学のあるK大学を選択しました。

大阪万博の年に社会人になって、大阪港のコンテナふ頭や、神戸港ポートアイランドや関西空港の建設に関与しました。チェコの欧州地盤学会で、関空２期島の総沈下量が18ｍになると発表した時に欧米のメンバーからとても驚かれたことを覚えています。定年退職後、母校の大学院に通って、集大成の博士論文をまとめました。「天の高きを」少し覗けたかなと思います。

「故郷は遠くにありて思うもの」は、室生犀星の詩です。「そして悲しくうたうもの」と続きますが、私にとって故郷はほんとうにやさしくて懐かしいものでございます。ただ、今は親兄弟もなくなり、コロナで益々遠くなっています。「塔陵」第44号を読ませて頂いて、佐用高校の修学旅行も海外に出かけていることを知りました。今は早々に大海を実見することになっているようで羨ましく思います。卒業後進学する人も過半数になっているようで頼もしく思います。地球環境や戦争やで世界はたいへんな時代になっています。後輩の頑張りを切に期待しています。頑張ってください。お願いします。

花井義信君よ 思い出をありがとう

清水 正実
高校21回生（昭和四十四年卒）

私の親友花井君は昨年６月にがんで突然亡くなった。

彼とは別々の小学校ながらお互いの家の田んぼがとなりだったことから幼いころから知り合いであった。その後、中学・高校と一緒で特に高校での３年間は同じクラスでよく遊んだものだ。

卒業してから私は地元を離れたため、同窓会で会う程度だったが、仕事にも余裕ができた頃から時々ゴルフに行ったりしていた。

そしてそれぞれが定年を迎えた２０１１年に他の同級生に声をかけてゴルフの会を作った。スタート時は８名だったがその後、友が友を誘い、今では20数名の大世帯になった。

その会の発足から世話をしてくれたのが花井君である。誰からも慕われ、面倒見のいい彼は現役時代には労働組合の専従にもなったほどで同級生仲間からも絶大な信頼があった。彼のおかげで、ほぼ毎月コンペを開催しており、９月で通算１２０回を迎えた。

そんな彼が体調不良を訴えたのは昨年３月のことで、以前から「医者は不要・検査は嫌い」と豪語していたのが災いして今となっては残念でならない。

彼の発案でバスを貸し切って高知黒潮カントリーへの１泊ゴルフ旅行を企画した。本人がバスの手配まで済ませたものの直前になって床に伏せてしまい無念にも行けなくなったことは誠に悲しいことであった。

ゴルフ以外にも思い出はいっぱいある。まずは山登りである。中には山に興味のない友人も無理やり誘い、夏になると白馬・唐松岳、西穂高、乗鞍岳を登った。移動の車中ではみんな好き勝手なことを言い合って本当に楽しい時間であ

令和記念大会（第36回燦燦会）

った。コロナがなければもっと行けたはずである。

また、四国八十八ケ寺巡りを思い立ち、まず手始めに一昨年５月に仲村、坂本両君を入れて阿波路（徳島県）の22ケ寺を回った。われわれはただ参るだけなのに、花井君は全寺で御朱印帳に記帳してもらっていた。そんな信心深い一面も持っていた。引続き、土佐、伊予、讃岐路を回るはずだったがそれもかなわぬこととなった。

彼は少年時代から熱烈な西武（当時は西鉄）ライオンズのファンで、関西では試合が少ない中、セパ交流戦を甲子園で観戦中、西武が大量リードしている時に「嫌味」にもタイガース党の私のところに電話してきて高笑いしていたのは悔しい思い出である。

花井君、いろんな思い出をいっぱい残してくれてありがとう。

君の遺志を継いでゴルフの会は私が世話役として続けていきます。

（右から二人目が花井君）

母の故郷“佐用”

はじめまして。神戸市東灘区在住の平田憲彦と申します。

母の平田文子が御校の卒業生で、大変お世話になっております。

このたび、お知らせがあってご連絡をさしあげる次第です。

昨年の７月17日に、母が82歳で永眠いたしました。四十九日などの様々なことがあり、ご連絡が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

母の荷物を整理しておりましたら、御校同窓会からの封書が出てまいりましたので、このように連絡することが出来ました。

母の旧姓は、坂本です。金屋出身です。

私にとっても佐用は大切な母の故郷で、幼いころは母に連れられて毎夏に帰郷しておりました。

これまで母が頂いてまいりましたご縁やご厚意に、心から御礼申し上げます。

これからも御校のご発展をお祈り申し上げます。

いつまでも佐用高校と共に

江見秀樹

高校41回生（平成元年卒）

いきなりですが、佐用高校生のみなさん、青春してますか？　学校生活やクラブ活動、友人との時間を楽しんでいますか？　みなさんは、コロナ禍という前例のない特殊な中学校・高校生活を過ごしてこられました。かつてのような日常生活を取り戻しつつある今、過ぎ去った時間は取り戻せませんが、「青春は密なので」と言われた高校野球の監督の名言のとおり、どうぞ、限りある高校生活を、ぜひ後悔のないように過ごしてください。きっと生涯の友との出会いがあるはずです。

さて、私自身は、佐用高校を卒業してから、早いもので約35年になります。今回、この寄稿のお話をいただき、あらためて高校時代を思い返してみたのですが、恥ずかしながら勉強をした記憶が一切出てきません。一応進学しましたので、それなりに受験勉強してたはずなのですが、なぜか全くもって勉強や授業の記憶が消えてしまっています。思い出せるのは、気の合う仲間たちと遊んだこと、クラブ活動、塔稜祭、サッカー大会、マラソン大会、修学旅行、甘酸っぱい恋の思い出・・・。そんな楽しいことばかりです。

否、二つほど苦しいことを思い出しました。ひとつは、毎日毎日、約９キロの道のりを、晴れの日も雨の日も、雪の日も、よくも自転車で通ったこと。過去の自分を褒めてあげたいです。もうひとつは、数学の試験で２回も赤点を取ったこと。よくも卒業できたものです。先生の指導に感謝いたします。

さて、佐用高校を卒業後は、「京都大学」ではなく、「京都の大学」に進学し、４年間の都会生活を送りました。六畳一間で、風呂・トイレ・キッチンなし、家賃１８，０００円という、今どきの学生からは信じられないような環境でしたが、ここでも一生涯の友ができました。４年間、仕送りをしてくれた両親に感謝です。

大学卒業を控え、就職を考える際には、今ではほぼ死語になっているであろう「長男だから帰ってきて家を継いで」という両親からの言葉に素直に従い、佐用町役場を受験。結果、幸いにも佐用町に奉職させていただくことができ、現在、入庁から30年を過ぎました。仕事柄、町内在住の同級生とは顔を合わすこともあり、また、役場のなかにも同級生がたくさん働いています。とても幸せなことです。

ただ、ご承知のとおり、全国の過疎・中山間地域と同様、佐用町

も少子化・過疎化が進展しています。このあおりを受け、将来的には佐用高校のクラス減ということも考えられますが、佐用高校は本町の最高学府であり、地域を担う人材育成の場として欠かすことのできない存在であることは、未来永劫変わりません。

前号の塔稜にて、地域協働部長・家政科長である岩﨑先生からの寄稿「佐用町と共に」を拝読いたしました。今回のタイトル「いつまでも佐用高校と共に」は、これを受けてのものです。高校生のみなさんには、町の行事等でも本当に活躍いただいており、佐用高校が少しでも多くの学生に選んでいただける魅力的な学校であるよう、教職員のみなさまとともに、佐用町としてもお手伝いしていきたいと考えています。同窓生のみなさまにも、こういった状況に関心を持っていただき、ぜひ何かとご協力をお願いします。

最後になりましたが、同窓生のみなさん・在校生のみなさんに、ひとつお願いがあります。「佐用町で人口減少が進むのは働くところがないからだ」というご意見をよく伺います。確かに、都市部と比較すれば種類も数も少ないのは事実ですが、役場の採用においても、佐用町出身者からの応募が非常に少ない状況です。町内の経営者等からも「募集しても応募がない」という声を、よくお聞きします。

佐用町から世界へ出て行って、あるいは、都市部へ出て行って頑張る方、頑張ろうとされている方ももちろん応援いたしますが、「佐用町に帰って来よう」「佐用町で頑張ってみよう」ということも、どうぞ選択肢の一つに加えてみてください。

佐用町は、みなさんの力を求めています！

とりあえず『やってみよう』

杵築 一照
高校71回生（平成三十一年卒）

佐用高校を卒業してから、そして大学生活の為に地元を離れて早5年が経ちました。時間の流れは本当にあっという間で、気を抜いていると1日が終わっていた、といった事も多くなったように思います。そうした時にふと思い出すのが、佐用高校のT先生の言葉です。

私は小さい時から、多くのことを後回しにする悪癖がありました。自分の好きな事であれ、嫌いな事であれ、「面倒だ」と思うとすぐに放り出してしまうのです。

受験シーズンに入った時の事でした。私は志望大学へ公募推薦で受験したのですが。その前段階となる提出書類の中に小論文があったのです。書類そのものは3年生の夏の時点で手元に置いていたものの、案の定私は「面倒な事」として後回しにして、提出期限がひと月を切った段階でようやく小論文に手を付け始めたのでした。そうして小論文についての相談をT先生にしたところ、真っ先に「なぜもっと早く言わなかったのか」と至極真っ当な言葉を受けました。続いて、「貴方は今、とても勿体ない事をしている。」「どのような形でも良いからまずは（小論文を）書いてみなさい」と言われました。この言葉を受け、私はようやく自分の置かれていた状況と、惰性のまま生きていた自分と相対することになったのです。その後もT先生は付きっきりで小論文の作成と添削を手伝って下さいました。ここまでひたむきに生徒一人に寄り添ってくれる先生がいる事は、佐用高校の素敵な所の一つではないかと思います。

在校生の皆様、そして、これから卒業される皆様は一日の流れをどう感じるでしょうか？もしも時間が沢山あると感じたなら、暇だと思うなら、それは何かを始められる確かなチャンスです。「後でもできるから、今はやらなくてもいいや」「いつか時間が取れるだろう」では、とても勿体ないです。

時間は本当にあっという間に過ぎていきます。高校生活の3年間も気を抜いているとすぐに過去のものになってしまいます。ですが、一日一日を大事に積み上げて行けば、大変長く、そして充実したものに変わるはずです。その為にも、何かを「やって」みましょう。

農業クラブ活動に参加して

第1学年　松尾　尚人

私は、４月に農業科学科へ入学してから多くのことを経験する中で、「農業の難しさと奥深さはこういうことなのか」とこの１年を通じて思うようになりました。そのように感じたポイントが、２つありました。

まず、一つ目は７月21日に実施された第71回兵庫県農業クラブ連盟大会農業鑑定競技会に参加したことです。私がこの大会に参加するきっかけになったのは、先生からの提案があったからです。先生から、授業終りの休み時間に呼ばれ、話を聞くと、「農業鑑定競技会というのが７月21日にあるのだけれど出てくれないか？」ということでした。初めてその大会の名前を聞いたとき、私は何をするのか分からず疑問に思い先生に聞いたところ、その大会の競技内容に面白さを感じ、参加することを決めました。そして、参加が決まり、７月21日の大会に向けての勉強が放課後に行われました。勉強を行っていく前は少し道具の名前を覚えたりするだけだと思っていましたが、いざ勉強を進めていくと膨大な量の資料を見て機械・用土・植物などたくさんの名前を覚えないといけないことに加え、私が苦手とする計算の問題も出るといわれ、自分の中の何とかなるだろうという考えが消えました。また、勉強していくうちに、たくさん勉強して覚えなければ大会で良い結果を残せないという焦りが出てきました。約１週間の放課後の勉強会だけでは足りないところもあると思い、少しでも良い結果を残すため家でも勉強を行いました。

そして、農業鑑定競技会の本番の日がやってきました。朝起きると今日が本番なのだという思いが強くなり、より緊張していました。会場に到着し、待ち時間が終わり、自分の出番がまわってきました。会場の中に入り問題に答える中でも緊張で押しつぶされそうになりましたが、何とか無事に終えることができました。数日が経ち、結果が伝えられた時には、もう少しできたことがあるのではないかと思いました。けれど、この経験は貴重で私自身が一歩成長できたと感じました。

二つ目は、「第58回新しい農業を目指す高校生等のつどい」に参加したことです。私が選んだ分科会ではひょうたん農場株式会社の須原隆一さんの話を聞きました。須原隆一さんは50ヘクタールの水田と50頭の繁殖牛を所有していると聞きました。50ヘクタールの大きさの目安を聞くと約田んぼ３００枚ほどの大きさだと聞き、その大きさに驚きました。そして、話の中でも驚いたのは機械の値段に関する話です。お米を作る機械だけでも５０００万円ほどはかかると聞きとても驚きました。その他にもたくさんのことを聞き農業の難しさと奥深さを理解するとともに、自分の考えを深める良い機会となりました。

この１年間は農業の基礎を良く学ぶためにたくさんのことをしましたが、どの経験も貴重で、忘れずにこれからも学習していきたいと思います。

初めてのＫＩＺＵＮＡ大作戦での講義

第2学年　見明　優那

佐用高校では、毎年「ＫＩＺＵＮＡ大作戦」という避難訓練を12月頃に行っています。この避難訓練には、佐用高校の生徒以外にも、佐用町に住む高齢者の方々や佐用小学校の１年生などが参加し、今年からは佐用町内にある日本語学校の生徒の方々も参加しました。避難訓練自体は２年生家政科の課題研究（福祉）を選択している生徒が中心となって企画しており、それ以外の家政科生徒は避難訓練当日に普通科や農業科学科の生徒に向けて防災講義を行ったり、パック調理をしたりします。私は当日、講義を担当しました。今年講義を担当した人の中には昨年も講義を担当した人がいます。この講義は家政科の１年生も補助で入るのですが、昨年私が１年生の時に、当時の２年生と一緒に講義をした時のことを思い出しました。昨年私が補助に入った時は、わからないことも多くて自分から何かを伝えたり、行動したりすることができず、先輩や先生に指示されてから行動していました。当時の先輩はどんなことが起きても臨機応変に対応していて、私たちもこんな先輩になれるのだろうかと思うこともありました。そして今年、私たちが講義をする番がきました。人の前に立って何かをするのはあまり

得意なことではないので「もしトラブルがあったらどうしよう」「スムーズに進まなかったらどうしよう」「どうしたらもっと相手に伝わりやすくなるだろう」と不安な気持ちが多くありました。その不安な気持ちは講義が始まってからもずっと続いていました。問題なく終わってほしいと思っていましたが、始まって早々パソコンの接続が悪かったり、必要な材料が足りなかったり、様々なトラブルが起きてしまいました。その時に、昨年の２年生はこういう時にどうしていただろうと考えました。先輩は誰もうろたえることなく、冷静に行動していたことを思い出しました。私も１年生にそう思われるように行動し、来年講義を担当する後輩の手本にならなければならないと思いました。そう思ってからは、気持ちを入れ替えて、自信を持ち、講義をすることができました。講義が終わる頃には緊張は一切ありませんでした。

また、講義中、災害時のことを想定し、チラシで紙皿を作ります。その作り方の説明をする時に、私は工程を１つ飛ばしてしまいました。そのことに気づいておらず、説明をし続けていました。しかし、１年生がそのことに気づき、教えてくれました。その工程を飛ばしても、形はお皿になるけれど、その工程をふんだ方が形は崩れにくく、保たれるということも１年生が助言をしてくれたのです。

最初は、１年生の手本になることばかりを考えて頑張ろうと思っていましたが、最終的には手本になるどころか１年生に助けてもらってばかりでした。昨年の先輩方のようには、かっこよく行動できず、１年生の手本となる存在になれたかはわかりません。しかし、昨年多くのことを教えて下さった先輩方と今年手伝ってくれた１年生のおかげで、講義は成功させることができました。

家政科の取り組んでいる行事はこれからも多くあります。後輩の手本となれるように一生懸命頑張ることはもちろんですが、周りの人と協力し合うことの大切さも忘れずに、精一杯取り組んでいきたいです。

在校生

地域と触れ合って

第３学年　山本　純嘉

私たち76回生家政科は、ファッションショーやお菓子販売など様々な活動をしてきました。そして、地域の方々との交流も行ってきました。その中でも印象に残っているのは「訪問サービス」と「高校生カフェ」です。

訪問サービスでは、佐用町内の高齢者の方のご自宅を訪問しました。１人の高齢者の方を合計３回訪問し、クイズなど自分たちで考えたレクリエーションを行いながらコミュニケーションをとりました。また、毎回の訪問サービス後に手作りのプレゼントも製作しました。高齢者の方と関わる機会が少ないので、どのように交流したらいいか分からず最初は戸惑いもあり、私たちも高齢者の方も探り探り、といった状態でした。ですが、交流するうちに緊張もほぐれて笑顔で接することができました。訪問先の方からは、毎回「楽しかった。」、「高校生と交流できて嬉しい。来年も来てほしい。」などの言葉をいただき、訪問サービスをやって良かったと思いました。

高校生カフェでは、佐用町の特産品を使用したレシピを自分たちで考え、お弁当を提供しました。何回も試作・試食を行い、食べてくださる方の年齢層なども考えながら完成させました。また、佐用町のことを、佐用町以外の方にも少しでも知っていただきたいと思い、一つでも多くの特産品を使用できるようにレシピを考えました。当日は、佐用町の方だけではなく、佐用町以外の地域の方にも来ていただけました。自分たちで考えて作ったお弁当や佐用町の特産品の紹介なども、全て自分たちで行いました。お客様が帰られる際には、「美味しかった。ありがとう。」と言ってくださり、その言葉で、私たちは次の日も頑張ることができました。

私たちは、１年生の時から、授業で佐用町の様々な課題について学び、２年生、３年生で地域のために活動してきました。私たち高校生にできることは、地域の方とたくさん交流し、コミュニケーションをとることです。その結果、佐用町全体が、笑顔に、そして、元気になっていただけるのなら、それは私たちにとってやりがいがあることです。どの活動も、最初は緊張してどのように地域の方と接したらいいか分からなかったのですが、自分に自信をもって交流すれば、私たちも相手の方も笑顔になれることが分かりました。あとどのくらい地域の方と交流する機会があるか分かりませんが、私たちができることに精一杯取り組み、みんなが笑顔になれるよう頑張りたいと思います。

同窓会の動き

4月10日　第78回生入学式
5月19日　佐用高校を育てる会
6月29日　第1回本部役員会
7月29日　令和5年度　塔陵総会
10月11日　第1回編集委員会
11月22日　第2回編集委員会
1月24日　第3回編集委員会
2月15日　同窓会報「塔陵」第45号発行
28日　第76回生　同窓会入会式
29日　第76回生　卒業証書授与式

同窓会運営協力金のお願い

（1口　1,000円以上）

同窓会員の皆様には、平素から母校の発展のためにご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

本会では毎年会報を発行しておりますが、印刷代・封筒代・郵送費等かなりの経費が必要となっております。

つきましては、この会報の発行をはじめ同窓会運営のための協力金をお願いしております。協力金の振込については、同封の郵便振込用紙をご利用下さい。

領収書は郵便振込の際の「払込金受領証」をもって代えさせていただきます。

※ 協力金の会計整理のため、郵便振替用紙には住所・氏名と卒業年数を必ずご記入くださいますようお願いいたします。

令和４年度　同窓会会計決算書

収入総額　３，４４３，５３４円
支出総額　２，３７０，０９６円
差引残額　１，０７３，４３８円 …（次年度へ繰越）

収入の部

（単位:円）

科目		予算額	決算額	過不足	摘要
繰越金		1,159,520	1,159,520	0	前年度からの繰越金
会費収入		1,854,600	1,796,400	△ 58,200	会費・入会金
	入会金	159,000	159,000	0	
	会費	1,695,600	1,637,400	△ 58,200	
雑入		395,880	487,614	91,734	
	諸収入	9,300	4,800	△ 4,500	同窓会名簿代
	寄付金	383,560	482,799	99,239	
	協力金	3,000	0	△ 3,000	
	利息	20	15	△ 5	預金利息
計		3,410,000	3,443,534	33,534	

支出の部

（単位:円）

科目		予算額	決算額	残額	摘要
総務費		380,000	63,544	316,456	
	事務費	60,000	50,000	10,000	卒業アルバム（保管用）、事務局費
	会館費	300,000	2,530	297,470	
	通信費	10,000	11,014	△ 1,014	通信連絡費
	旅費	10,000	0	10,000	
事業費		2,130,000	1,906,552	223,448	
	広報費	1,550,000	1,482,757	67,243	「塔陵」発行費
	会議費	60,000	3,795	56,205	本部会議費
	慶弔費	20,000	0	20,000	
	後援費	50,000	20,000	30,000	生徒顕彰費
	負担金	400,000	400,000	0	佐用高校を育てる会補助金
	助成費	50,000	0	50,000	支部活動助成費
積立金		400,000	400,000	0	周年事業計画積立金
予備費		500,000	0	500,000	
計		3,410,000	2,370,096	1,039,904	

追悼

ご逝去されました同窓会員の皆様に哀悼の誠を捧げるとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会ニュース

同窓会のホームページを開設しています。同窓会ニュース、同窓会だより（同窓会報「塔陵」）も掲載中です。又、生徒の部活動についても下記ＱＲコードで詳しくご覧いただけます。

＊ホームページアドレス
http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/dosokai/indexl html

編集後記

「塔陵がまだ届かないんだけど…。」と会員さんからの声が事務局に届きました。

昨年から発送費等々の値上げ要請があり、紙面構成を調整せざるを得なくなり、編集に時間を要しました。

二ヶ月以上遅れましたが、やっと発行することができました。

また、卒業生の皆様に同窓会報をお届けしておりますが、住所等を変更された方にはお届けできておりません。

ご家族・ご友人の転居先等の情報を同窓会事務局までお寄せください。次号より発送させて頂きます。